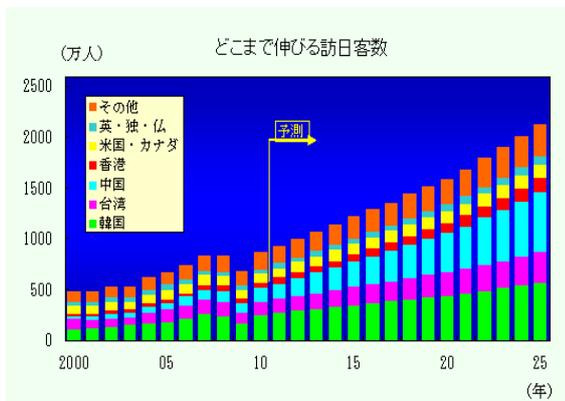


日本における公衆無料 Wi-Fi の拡充の必要性と提案

史 中超 研究室
1031076 姜 エイ

1. 研究背景と目的

今、スマートフォンとタブレット (iPad など) の普及に伴って、公衆無料 Wi-Fi の利用者が急増している。旅先でスマートフォンやタブレットから旅先の公衆無料 Wi-Fi を接続して SNS などから旅行やビジネス情報を入手することが世界的に一般化となりつつある。また、日本政府が 2010 年 6 月に閣議決定した「新成長戦略」では、訪日観光客を 2020 年初めまでに 2500 万人、将来的には 3000 万人に増加させること (図 1) を目標に掲げており、日本において訪日観光客の公衆無料 Wi-Fi 利用のニーズが高くなることが確実である



う。

図 1：訪日観光客人数の将来予測

参考：日本経済研究センター

しかし、日本の都市部で利用できる公衆無料 Wi-Fi のほとんどは携帯キャリアや通信会社が提供する公衆無料 Wi-Fi で、契約者しか使用できない。また、観光庁が発表したアンケート調査資料によると、3 割以上の訪日旅行者が日本の「公衆無料 Wi-Fi 環境」に対して「困った」と答えたことが分かった。

本研究では国内外の公衆無料 Wi-Fi 環境の整備現状を調査・比較したうえで、日本における公衆無料 Wi-Fi の拡充の必要性を分析し、日本の公衆無料 Wi-Fi 環境の拡充案を提案することを目的とする。

2. 日本における公衆無料 Wi-Fi の現状

日本の公衆無料 Wi-Fi 現状を理解するために、台湾の台北市と比較してみた。日本全国の土地面積は台湾の台北市の約 1393.75 倍であるけれども、無線アクセスポイントは 3300 箇所しかない。日本の土地面積は台北市の土地面積の約 1393.75 倍あるのに、無線アクセスポイントは台北市のたったの 1.7 倍である。

日本の公衆無料 Wi-Fi はまだ普及されていないため、訪日観光客だけではなく、一般の市民からも様々な不満の声がある。例えば、マクドナルドやスターバックスなどのカフェや飲食店で無料 Wi-Fi を使用するためには、ID 登録が必要な専用アプリを必要とする場合が多い。そして、無料 Wi-Fi があるところには英語の説明がほとんどない。また、ほとんどの公衆 Wi-Fi には認証機能が必要であり、認証なしで解放されている公衆 Wi-Fi を探すことは非常に困難である。

観光者の大部分は日本語が話せないため、コミュニケーションや公共交通の利用は大変である。スマートフォンには翻訳アプリが多数あるので、日本語が分からなくても翻訳アプリを通じて、なんとか日本人と交流する事ができる。また、公共交通の経路情報もスマホのアプリを使えば、簡単に目的地までの公共交通経路の情報を得られる。さらに、ビジネスマンは突然パソコンでメールや業務などを処理しなければならない場合も多くある。

以上のいずれのケースでも、公衆無料 Wi-Fi がなければ、当事者が大変困ることになる。よって、公衆無料 Wi-Fi の拡充は必要不可欠である。

3. 海外における公衆無料 Wi-Fi 事例

・アメリカ：資料調査によると、アメリカは公衆無料 Wi-Fi 環境の整備が整っているため、ネットに接続できないと悩むことがほとんどない。ホテル

ル、カフェ、ファーストフード、空港など、ほとんどの場所で無料 Wi-Fi が接続できる。街と公園の一部にも公衆無料 Wi-Fi が入っている。例えば、ロサンゼルスの子サンタモニカでは、どこでも無料 Wi-Fi が使える。また、ニューヨークのセントラルパーク、タイムズスクエアなどに公衆無料 Wi-Fi がある。

・台湾：「iTaiwan」は、台湾全体どこでも利用できる公衆無料 Wi-Fi サービスである。2013 年 5 月に台湾の行政機関が運営して始まり、各主管機関と地方自治体では、各地の観光スポットや公共交通機関、学校や役所など全国約 4,400 ヶ所の公共施設に、公衆無料 Wi-Fi サービス・Wi-Fi 接続スポット「iTaiwan」の設置を進めてきた。

・香港：香港の全都市は Wi-Fi 化になっている。政府はすべての香港市民に無料 Wi-Fi を提供することを目標として、政府ビル、図書館、主要な公園、レクリエーション施設、公営市場、主な観光地など中心に無料 Wi-Fi を拡張させ、現在香港は 400 ヶ所以上の無料 Wi-Fi が利用できる。この中で特に香港のバスが特徴的である。ファーストバスやシティバスの中に公衆無料 Wi-Fi サービスがあり、空港行きのバス内でも使用できるので、非常に便利である。空港行きのバス内には[図 2]のような看板があり、その中に、無料 Wi-Fi の接続方法の説明（中国語と英語）が書かれているため、接続方法はとても簡単である。

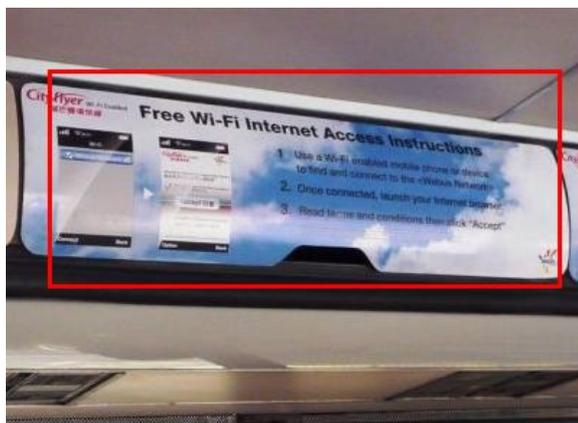


図 2：香港空港バス内に貼る無料 Wi-Fi 接続の説明看板

参考：香港空港行きバスでは無料 Wi-Fi が使える

http://www.womanapps.net/news_9wGStrj1U.htm

4. 日本における公衆無料 Wi-Fi 拡充の提案

提案 1：政府主導で、主要な都市で台湾の「iTaiwan」のような公衆無料 Wi-Fi サービスを提供する。観光客や短期帰国者などは空港で申請手続きをして使用できるサービスを提供できる

ようにする。

提案 2：通信企業（NTT など）と地域が連携して、一般市民でも利用できる公衆無料 Wi-Fi 環境を整備する。

提案 3：銀座地区公衆無料 Wi-Fi（G Free）のような公衆無料 Wi-Fi 成功例[図 3]をモデルとして、日本全国様々な有名な街（原宿の竹下通りなど）や観光地（浅草など）へ推進・普及していく。

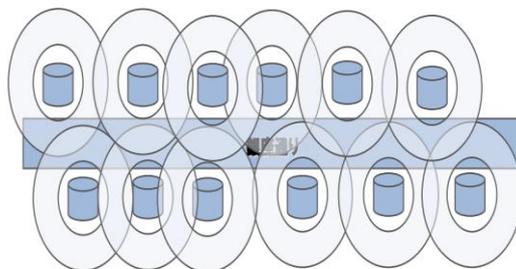


図 3：銀座地区公衆無料 Wi-Fi（G Free）銀座通りをカバーするイメージ

参考：G Free Ginza

<http://www.ginza.jp/archives/6277>

5. まとめ

2020 年五輪の東京開催が決まった。そして、富士山が世界文化遺産に登録されたことで、海外からの旅行者と観光客が増えて、日本は観光大国となることが期待される。公衆無料 Wi-Fi は訪れる観光客に対する「おもてなし」の重要な一環だと思う。先進国の中で、日本の公衆無料 Wi-Fi 事業の普及率が低く、さらなる普及活動が必要であると考えられる。これから、順々拡充すれば、利用しやすい国として観光客の増加も見込める。観光客の増加によって、経済の促進を促すことも可能であり、日本は国際性豊かな国へとまた一歩前進できる。

6. 主要参考文献

[1]観光庁-国土交通省

<http://www.mlit.go.jp/kankocho/>

[2]台湾観光協会

<http://www.go-taiwan.net/index.php/news/180-2013-0521.html>

[3]G Free Ginza

<http://www.ginza.jp/archives/6277>